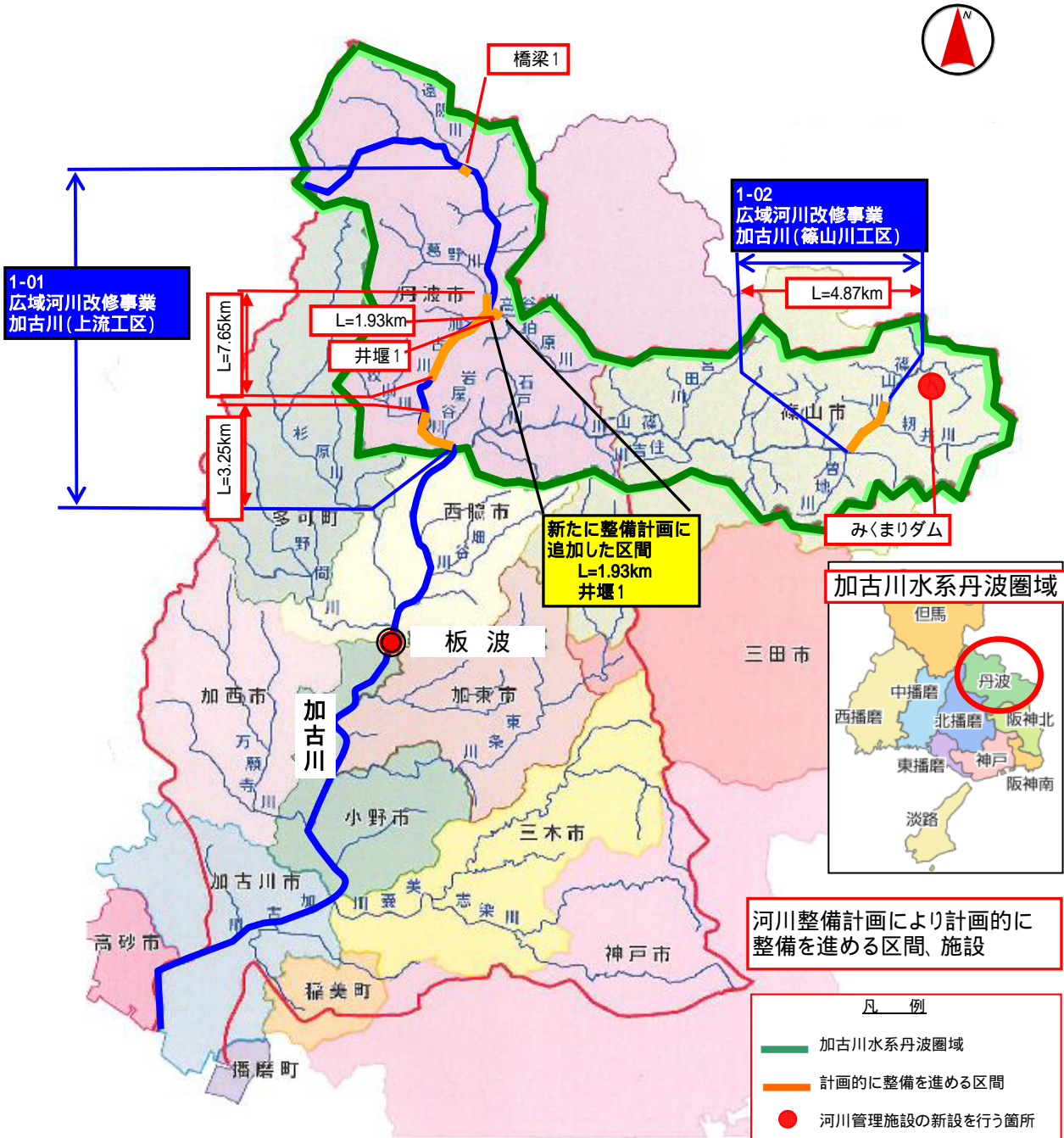


1 . 加古川水系 丹波圏域 河川整備計画(変更)

1 . 加古川水系丹波圏域 河川整備計画(変更) 全体位置図



河川整備計画の概要

策定年度	平成23年度 (当初策定:平成14年度)				
変更理由	平成16年台風23号洪水による被害を踏まえ、整備区間を追加した。				
対象河川	加古川水系丹波圏域内の全ての法河川(流域面積:582km ²)				
整備目標流量	板波地点 2,800m ³ /s(昭和58年9月洪水規模<戦後2番目>)				
整備区間	河川名	No.	整備区間	延長	備考
	加古川		篠山川合流点付近～前川橋付近	3.25km	事業中
			小野橋付近～犬岡橋付近	7.65km	事業中
	柏原川		中川原橋	-	H18完了
			中河原川合流点上流0.3km付近～五柿橋下流	1.93km	事業中
	篠山川		見田井堰	-	事業中
		普地川合流点付近～明永橋付近	4.87km	事業中	
三熊川		みくまりダム建設	-	H20完了	
対象期間	平成23年から概ね20年				

事業評価対象区間

【1 - 0 1 一級河川 加古川（上流工区） 広域河川改修事業】

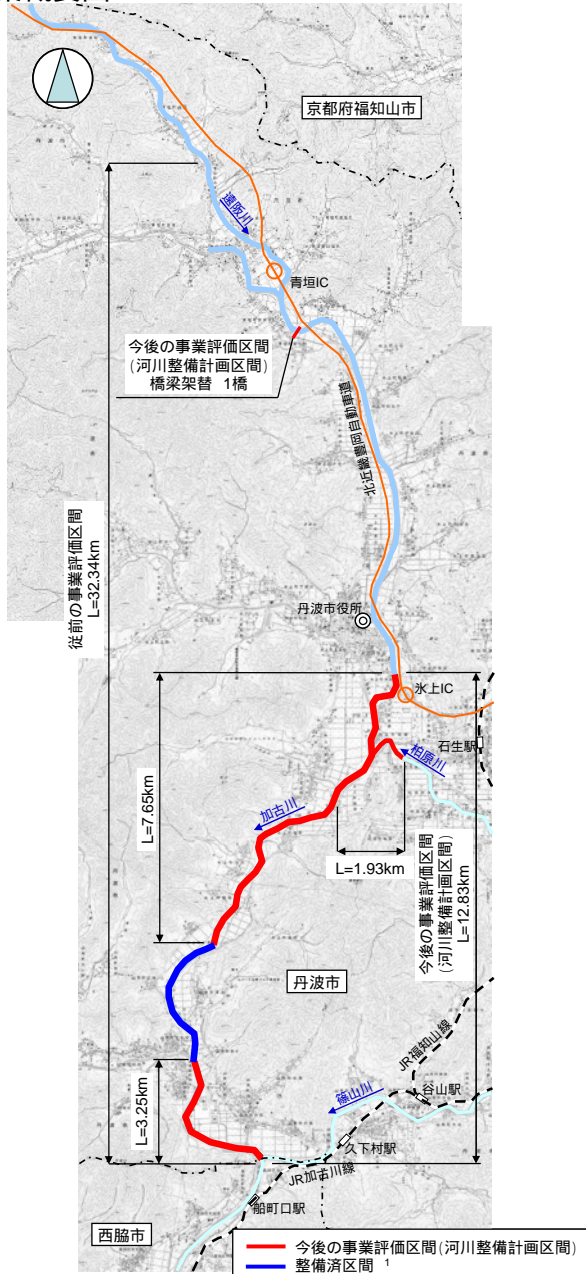
[従前] 従前の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H21 中間報告)
事業採択年度	昭和 16 年度	昭和 16 年度
完成予定年度	平成 50 年度	平成 50 年度
総事業費	465 億円	465 億円
整備延長	32.34km	32.34km
整備区間	丹波市山南町～丹波市青垣町	

[今後] 河川整備計画に位置づけられた、今後の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H21 中間報告)
河川整備計画策定年度 (事業採択年度)	平成 23 年度	平成 23 年度
完成予定年度	平成 42 年度	平成 42 年度
総事業費	82 億円	82 億円
整備延長	12.83km	12.83km
整備区間	丹波市山南町～丹波市青垣町	

事業概要図



事業変遷

- 昭和 16 年：加古川改修工事着手
(黒田庄工区 等)
 - 昭和 23 年：山南工区、氷上工区着手
 - 昭和 24 年：篠山川工区着手
 - 昭和 42 年：加古川一級河川指定
 - 昭和 57 年：加古川水系工事実施基本計画策定
 - 昭和 58 年：台風 10 号 (浸水家屋 2,116 戸)
 - 平成 2 年：台風 19 号 (浸水家屋 723 戸)
 - 平成 9 年：加古川改良工事全体計画書認可
 - 平成 10 年：事業評価 (再評価)
 - 平成 14 年：加古川水系丹波圏域河川整備計画策定
事業評価 (再評価)
 - 平成 16 年：台風 23 号 (浸水家屋 594 戸)
 - 平成 20 年：加古川水系河川整備基本方針策定
 - 平成 21 年：河川整備計画策定中間報告
 - 平成 23 年：加古川水系丹波圏域河川整備計画 (変更)
 - 平成 24 年：加古川水系丹波圏域河川整備計画 (変更)
策定完了報告 (再評価)
- 浸水家屋数は加古川水系丹波圏域河川整備計画による

河川整備計画策定報告【1-01】

部課室名	県土整備部土木局 総合治水課 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	総合治水課 山内 良太 河川整備課 松本 正利 (課長補佐兼計画係長 恒藤 博文) (課長補佐兼治水係長 木村 浩之)	内線 4426 4408 (4431) (4437)
------	----------------------------	---------------------	--	--

河川整備計画名	加古川水系丹波圏域河川整備計画(変更)													
河川整備計画(変更)の策定経緯	平成20年9月16日 河川整備基本方針策定 河川整備計画(当初)策定 平成15年1月7日 河川整備計画懇談会(第1回~第7回) 平成17年8月31日~平成18年10月20日 河川整備計画(変更)策定 平成23年8月8日													

河川整備計画と事業評価の関係	採択	~H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	
	S16	河川整備計画策定(当初)					懇談会立ち上げ					河川整備計画策定(変更)			
		H10再評価										中間報告			
		報告													

河川整備計画懇談会の主な意見	対応等
・柏原川の改修により、下流域で新たな浸水被害が発生するのではない。 ・堤防強化対策を実施して欲しい。	・河川整備計画で位置づけた加古川本川の改修が完成すれば、平成16年台風23号洪水でも堤防越水は生じない。 ・洪水時の堤防浸透破壊を防止するため、河川整備計画で位置づけた堤防強化を実施する。

事業種目	河川事業	新規評価年度	-		現計画 ¹	前回(H21) ²
事業名	一級河川加古川水系 加古川(上流工区) 広域河川改修事業	河川整備計画策定年度	H23	総事業費	82億円	82億円
		事業採択年度		内地補償費	14億円	14億円
		着工年度				
		再評価年度	-			
事業区間	丹波市山南町~丹波市青垣町			完成予定年度	H42	H42
所在地	丹波市山南町~丹波市青垣町			進捗率 (内用補進捗率)	74%(100%)	42%(89%)
				残事業費	21億円	47億円

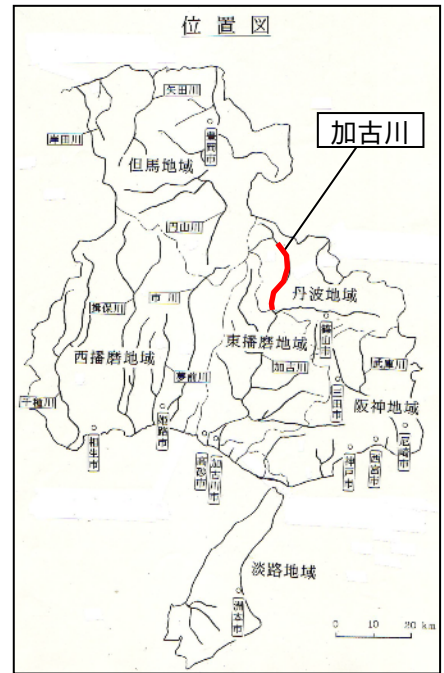
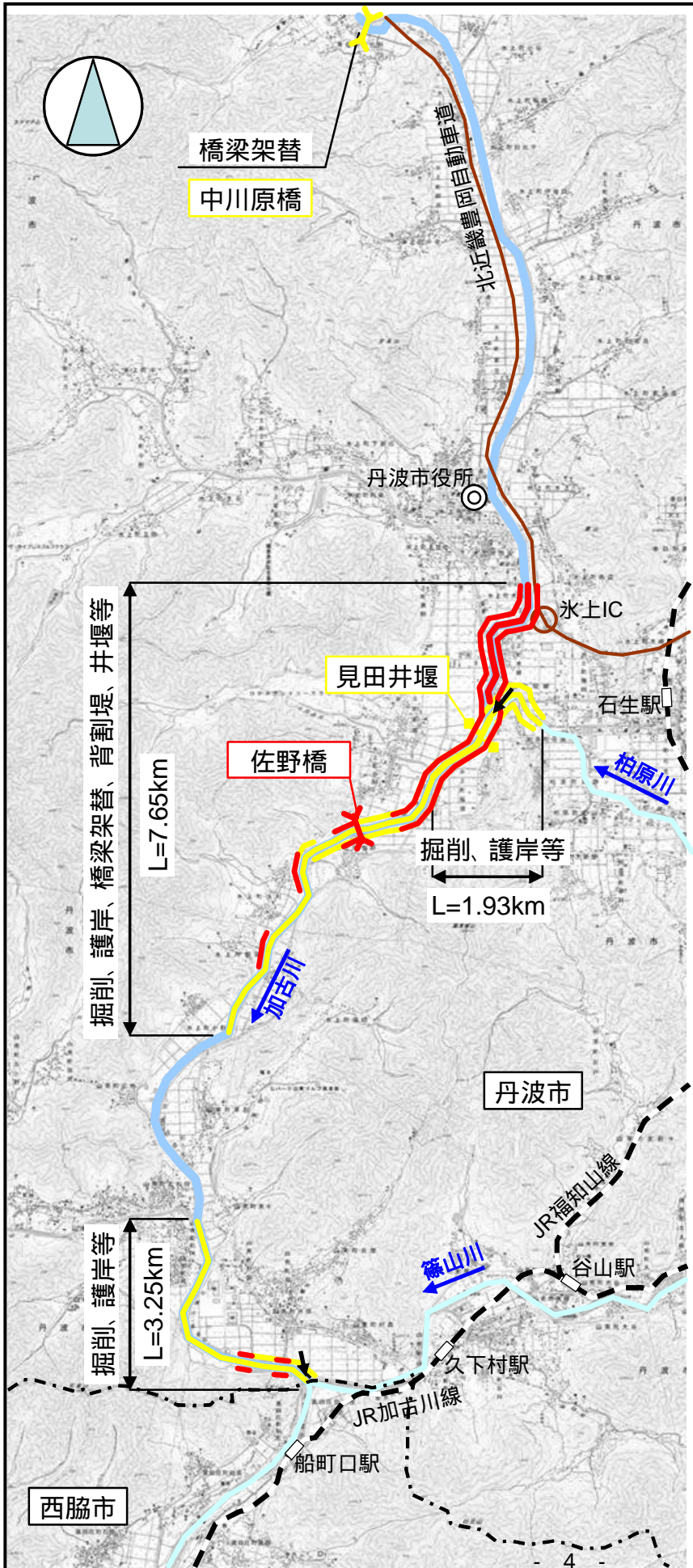
事業の目的	事業内容		
当該河川では、昭和58年9月台風10号洪水、平成2年9月台風19号洪水等過去から度重なる浸水被害に見舞われており、近年では、平成16年10月台風23号洪水により浸水被害が発生している。 そのため、上下流バランスを考慮し、下流部事業区間と同規模の河川改修(戦後2番目の昭和58年9月台風10号規模の洪水を安全に流下させる)を進め、流域住民の安全で安心して生活できる環境を確保する。		現計画	前回(H21)
	計画流量	2,800m ³ /s (基準点:板波)	2,800m ³ /s (基準点:板波)
	整備延長	12,830m	12,830m
	主要工種	築堤、掘削、護岸、橋梁2橋、井堰1基	築堤、掘削、護岸、橋梁2橋、井堰1基
[負担割合:国1/2、県1/2]			

【前回評価時点からの事業計画の変更概要】	
河川整備計画(変更)の策定に伴い、河川整備計画にあわせ事業区間等を見直した。	
(1)必要性	加古川上流域は、昭和58年9月台風10号洪水をはじめ、平成2年9月台風19号洪水、平成16年10月台風23号洪水等で多くの浸水被害が発生した。 当該事業においては、築堤、掘削、橋梁・井堰改築等が必要となっている区間が残っており、引き続き河川改修を進める必要がある。
(2)有効性・効率性	費用便益比: B/C = 3.3 河川改修を実施することにより、昭和58年9月台風10号規模の洪水に対し、浸水被害を防止できる。
(3)環境適合性	従前からあった瀬や淵等を可能な限り保全・復元するなど多様な生物の生活環境への影響を最小限にとどめる。
(4)優先性	本事業区間では段階的な整備を進めており、早期に事業効果を発現するためにも、優先的に改修を進める。
対応方針	策定された河川整備計画に基づき、事業の早期完了に向け、事業推進を図る。

1: 策定までに整備済みとなった部分を含む。

2: 前回の中間報告時の内容を河川整備計画区間で置き換えた値。

事業平面図

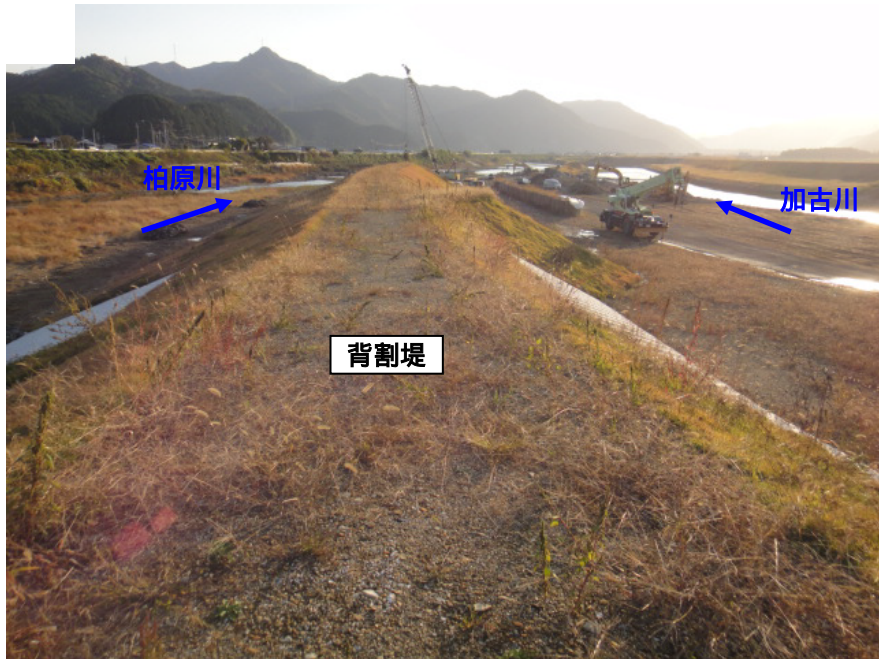


凡例	
	橋梁
	井堰
	H24迄に完成箇所
	H25以降に実施予定箇所

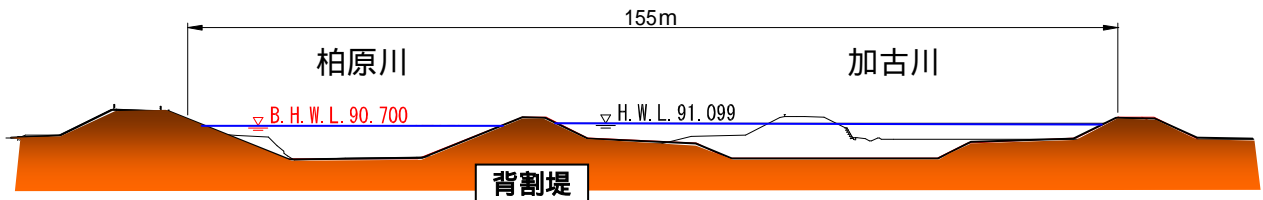
整備済区間(篠山川合流点)



整備状況(柏原川合流付近)



標準断面図(柏原川合流付近)



【1 - 02 一級河川 加古川（篠山川工区） 広域河川改修事業】

[従前] 従前の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H21 中間報告)
事業採択年度	昭和 16 年度	昭和 16 年度
完成予定年度	平成 50 年度	平成 50 年度
総事業費	174 億円	174 億円
整備延長	15.20km	15.20km
整備区間	篠山市東古北～小田中	

[今後] 河川整備計画に位置づけられた、今後の事業評価区間での比較

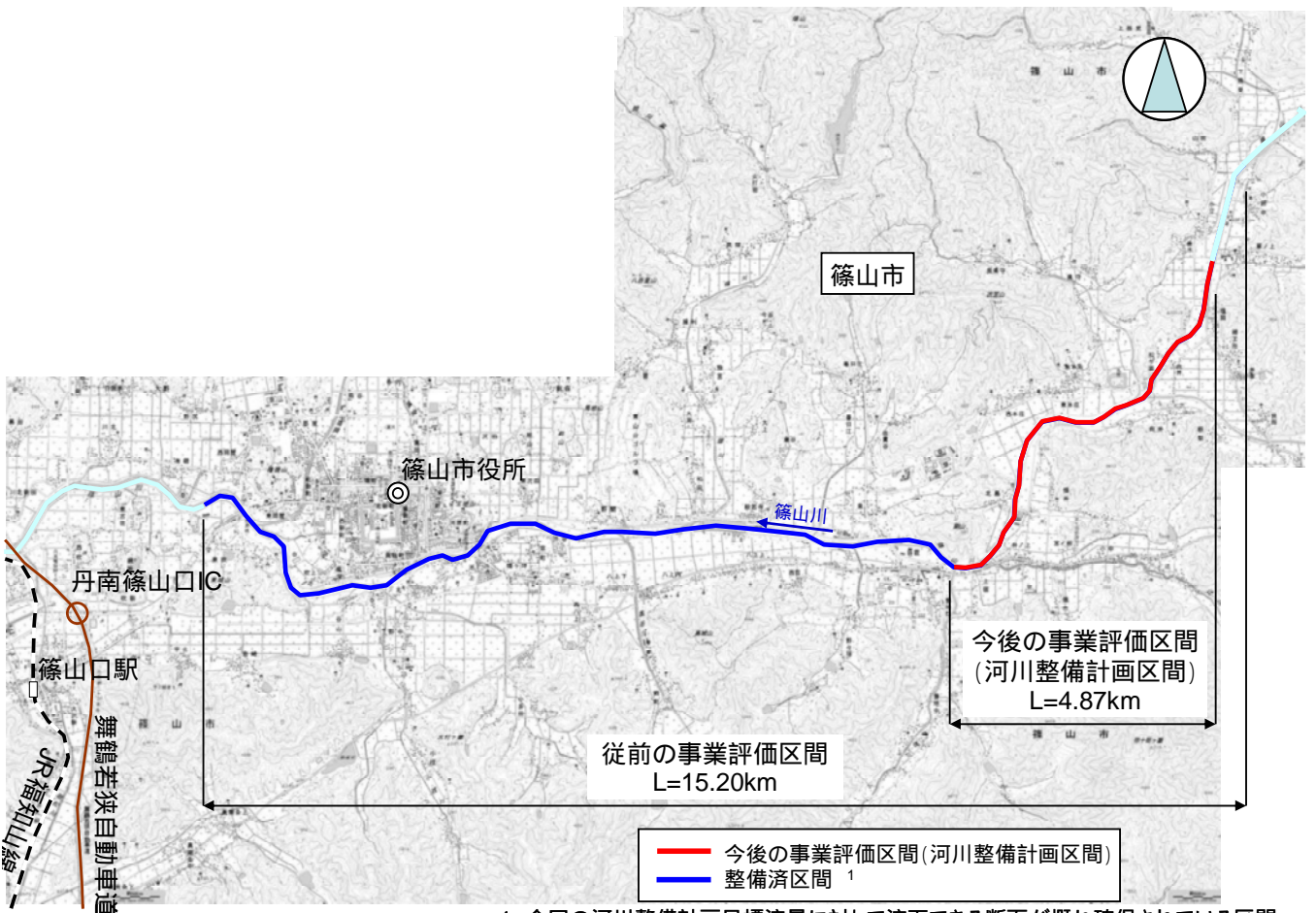
	現計画	前回評価時点 (H21 中間報告)
河川整備計画 策定年度 (事業採択年度)	平成 23 年度	平成 23 年度
完成予定年度	平成 42 年度	平成 42 年度
総事業費	19 億円	19 億円
整備延長	4.87km	4.87km
整備区間	篠山市上宿～草ノ上	

事業変遷

- 昭和 16 年：加古川改修工事着手
(黒田庄工区 等)
- 昭和 23 年：山南工区、氷上工区着手
- 昭和 24 年：篠山川工区着手
- 昭和 42 年：加古川一級河川指定
- 昭和 57 年：加古川水系工事実施基本計画策定
- 昭和 58 年：台風 10 号 (浸水家屋 2,116 戸)
- 平成 2 年：台風 19 号 (浸水家屋 723 戸)
- 平成 9 年：加古川改良工事全体計画書認可
- 平成 10 年：事業評価 (再評価)
- 平成 14 年：加古川水系丹波圏域河川整備計画策定
事業評価 (再評価)
- 平成 16 年：台風 23 号 (浸水家屋 594 戸)
- 平成 20 年：加古川水系河川整備基本方針策定
- 平成 21 年：河川整備計画策定中間報告
- 平成 23 年：加古川水系丹波圏域河川整備計画 (変更)
- 平成 24 年：加古川水系丹波圏域河川整備計画 (変更)
策定完了報告 (再評価)

浸水家屋数は加古川水系丹波圏域河川整備計画による

事業概要図



1 今回の河川整備計画目標流量に対して流下できる断面が概ね確保されている区間

河川整備計画策定報告【1-02】

部課室名	県土整備部土木局 総合治水課 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	総合治水課 山内 良太 河川整備課 松本 正利 (課長補佐兼計画係長 恒藤 博文) (課長補佐兼治水係長 木村 浩之)	内線 4426 4408 (4431) (4437)
------	----------------------------	---------------------	--	--

河川整備計画名	加古川水系丹波圏域河川整備計画(変更)														
河川整備計画(変更)の策定経緯	平成 20 年 9 月 16 日 河川整備基本方針策定 河川整備計画(当初)策定 平成 15 年 1 月 7 日 河川整備計画懇談会(第 1 回~第 7 回) 平成 17 年 8 月 31 日~平成 18 年 10 月 20 日 河川整備計画(変更)策定 平成 23 年 8 月 8 日														
河川整備計画と事業評価の関係	採択	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	
	S24	河川整備計画策定(当初)					懇談会立ち上げ					河川整備計画策定(変更)			
		H10 再評価					●					中間報告			
河川整備計画懇談会の主な意見	・河川改修に伴う河床低下の防止を図る対策をして欲しい。						対応等 ・河川の水衝部等においては、局所的に河床の洗掘が生じており、洪水時に洗掘が進行すると護岸崩壊や堤防決壊など甚大な被害が発生するおそれがあるため、床止工等対策を行う。								

事業種目	河川事業	新規評価年度	-		現計画 ¹	前回(H21) ²
事業名	一級河川加古川水系 加古川(篠山川工区) 広域河川改修事業	河川整備計画策定年度	H23	総事業費	19億円	19億円
		〔事業採択年度〕 〔着工年度〕			内用地補償費	1億円
事業区間	篠山市上宿~草ノ上	再評価年度	-	完成予定年度	H42	H42
所在地	篠山市上宿~草ノ上			進捗率 (内用補進捗率)	24%(100%)	20%(100%)
				残事業費	14億円	15億円

事業の目的	事業内容		
当該河川では、昭和58年9月台風10号洪水により浸水被害が発生している。 そのため、上下流バランスを考慮し、下流部事業区間と同規模の河川改修(戦後2番目の昭和58年9月台風10号規模の洪水を安全に流下させる)を進め、流域住民の安全で安心して生活できる環境を確保する。	現計画	前回(H21)	
	計画流量	550m ³ /s (曾地川合流地点)	550m ³ /s (曾地川合流地点)
	整備延長 主要工種	4,870m 掘削、護岸等	4,870m 掘削、護岸等

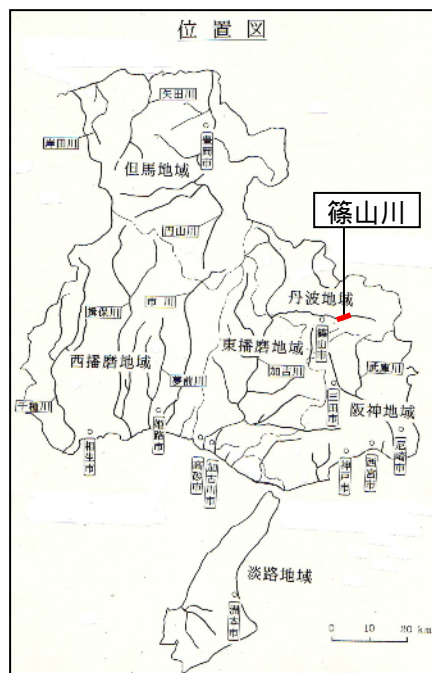
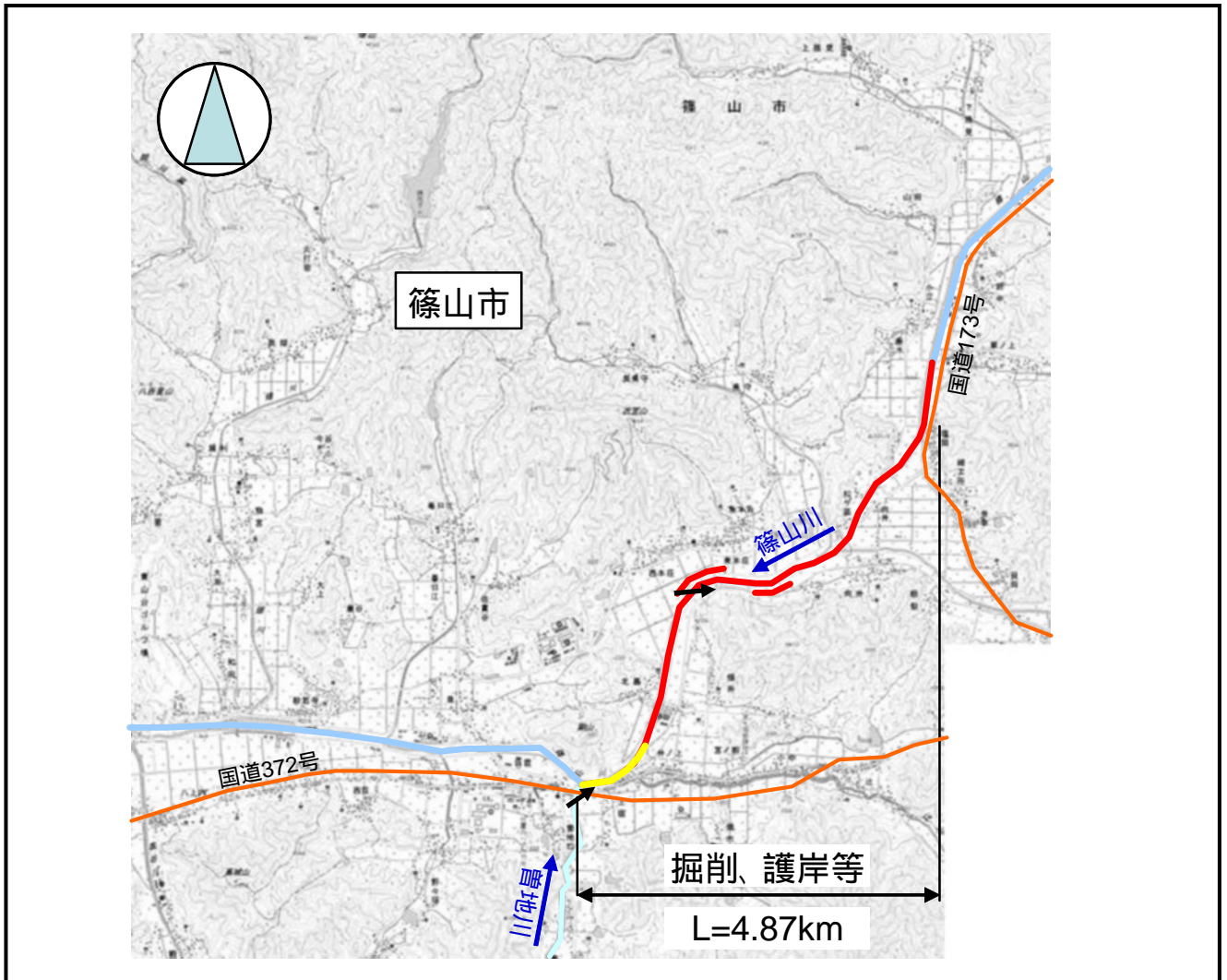
〔負担割合：国 1/2、県 1/2〕

【前回評価時点からの事業計画の変更概要】	
河川整備計画(変更)の策定に伴い、河川整備計画にあわせ事業区間等を見直した。	
(1)必要性	篠山川は、昭和58年9月台風10号洪水で浸水被害が発生した。当該事業においては、掘削、護岸等が必要となっている区間が残っており、引き続き河川改修を進める必要がある。
(2)有効性・効率性	費用便益比：B/C = 4.0 河川改修を実施することにより、昭和58年9月台風10号規模の洪水に対し、浸水被害を防止できる。
(3)環境適合性	従前からあった瀬や淵等を可能な限り保全・復元するなどして多様な生物の生活環境への影響を最小限にとどめる。
(4)優先性	本事業区間では段階的な整備を進めており、早期に事業効果を発現するためにも、優先的に改修を進める。
対応方針	策定された河川整備計画に基づき、事業の早期完了に向け、事業推進を図る。

1：策定までに整備済みとなった部分を含む。

2：前回の中間報告時の内容を河川整備計画区間で置き換えた値。

事業平面図



凡例	
—	H24迄に完成箇所
—	H25以降に実施予定箇所

整備済区間(曾地川合流点付近)



未整備区間(篠山市向井)



標準断面図(篠山市向井付近)

